2023年5月21日 礼拝メッセージ

聖書:申命記31章1～13節

聖書:集まり、聞き、学ぶ

はじめに

来週5月28日に2023年度信徒総会が開かれようとしています。先週、会員の皆様にお配りした資料では、2023年度の道標聖句として申命記31章12節を挙げさせていただきました。そこで今朝は、このみことばがどのようなことを語っているのかを学びながら、そこから私たちの教会向かうべき所をご一緒に考えてまいりたいと願います。

この箇所に入る前に、ここに至るまでの背景を簡単に振り返ります。

１　モーセからヨシュアへ

１）荒野の四十年

モーセがエジプトに遣わされ、そこで苦しむイスラエルの民を率いてエジプトを脱出し、カナンと呼ばれる約束の地を目指したことは皆さんご存じのとおりです。そのカナンの地までエジプトからはおよそ数百キロですから、徒歩であっても数週間からせいぜい一ヶ月もあれば帰られる距離。ところがイスラエルの民が神に逆らい続けたことから、荒野で四十年の間さまうことになります。その四十年が経って、さあこれからカナンの地に入るというその直前に書かれたのがこの申命記です。この申命記という名前、むかし聖書が漢文に翻訳されたときの呼び方から来ていて、「繰り返し命じる」という意味なのだそうです。1章5節にこうあるのが根拠です。「ヨルダン川の川向こう、モアブの地で、モーセは次のように、みおしえの確認を行うことにした。」9、11、12節に「みおしえ」とあるのは、すべてこの申命記を指します。

２）モーセの信仰

そこで今日の箇所に入るのですが、内容としては大きく二つに分かれています。前半は、イスラエルのリーダーがモーセからヨシュアにバトンタッチしていく、いわゆる後継者問題のこと。後半は、イスラエル全体がみおしえを聞くために主の前に出て行くという内容です。これら二つのことはばらばらではなくて、一つのセットになっていますので、それできょうは両方を見ていきます。

まずモーセの後継者問題のこと。どんな組織でもリーダーの交代は大変難しいことは皆さんもご存じでしょう。長年大きな力を振るってきた人が、高齢になっても引退しないで居座るとか、やっと引退すると思ったら自分の血縁を後継者に指名し、権力を一族で独占しようとする。そういうことをニュースで時々聞きます。

モーセはどうであったか。彼は四十年間、不信仰なイスラエルの民のことでずっと苦労するわけです。そんな困難な旅が始まる最初の時に神から告げられた。「あなたは約束の地に入ることはできない。」どう思いますか。おいしいごちそうを食べようと思ったら、目の前からぱっと取られたようなもの。普通はそんなこと言われたらやる気を失います。ところがモーセは四十年間、忠実に神に従う。どうしてそんなことができたのか。カナンの地にやがて救い主が来られ、本当の神の国を打ち立ててくださる。そこに必ず自分も迎えられていく。永遠のいのちを信じていたからです。だから彼は困難な仕事を続けることができた。

３）ヨシュアが先立って渡る

そのモーセもいまは百二十歳となり、かつて四十年前神に告げられた時が来たことを悟ります。そこで問題となるのは、だれが次のリーダーに立つのかです。モーセは3節でこう言っています。「あなたの神、主ご自身があなたに先立って渡って行き、この方があなたの前からこれらの国々を根絶やしにされ、あなたはこれらを占領する。ヨシュアが、主が告げられたように、あなたに先立って渡るのだ。」

ここだけ読むと、ヨシュアが突然後継者に指名されたかのような印象ですがそうではありません。「主が告げられたように」とあります。すでに申命記3章28章で、主がヨシュアを次のリーダーに選んでいた。ちゃんと順番を踏んでいる。それでモーセは7節でヨシュアを民の前に立たせて紹介し、ヨシュアには「強くあれ、雄々しくあれ」と励まし、「あなたがこの民たちに約束の地を受け継がせるのだ」と告げ、民たちが見ているところでヨシュアにバトンタッチしていきます。

この教会もいま牧師の交代のことを考えなければならない次期を迎えております。教会規則により、私は来年3月末をもって定年を迎えます。でも、まだ後任が決まっていないので、後任の牧師が定まるまで任期を延長させていただき、それと並行して後任の牧師を捜すための委員会を正式に立ち上げていくことを提案させていただいておりま

す。どんな方を後任の牧師として招くのか。私が勝手に決めるのではないし、皆さんの知らないところで決められるのでもない。ここを読んでわかるように、神がヨシュアを次の後継者に選んでいく過程について、モーセはその都度、事細かにイスラエルの民に報告しています。教会もこれとまったく同じです。神が次の牧師を選んでくださるわけですが、それはある日突然選ばれるのではない。ちゃんと一つ一つのプロセスがある。そこには隠し事があってはならない。すべて神の前でそして皆さんの前に告げられていく。そのために私たちは祈り備えていきます。

２　読んで聞かせる

１）免除の年、仮庵の祭りに民を集めて

ここまで後継者問題について見てきました。次に後半を見ていきます。10，11節。「七年の終わりごとに、すなわち免除の年の定めの時、仮庵の祭りに、イスラエル全体が、主が選ばれる場所に、あなたの神、主の前に出るためにやって来たとき、あなたはイスラエル全体の前で、彼らの耳にこのみおしえを読んで聞かせなければならない。」

ここに出てくる「みおしえ」が申命記全体を指すことは、最初に触れたとおりです。イスラエルには七年ごとに負債を免除しなさいという律法がありました。また春から初夏にかけての収穫の季節には、仮庵の祭りを行うようにとの律法もありました。そのような大切な年や祭りのたびにこのみおしえを繰り返し読んで聞かせなさいというのです。注目したいのは、いったいだれがこれを聞くのかです。12節にあります。「民を、男も女も子どもも集めなさい。あなたの町囲みの中にいる寄留者も。彼らがこれを聞いて学び、あなたがたの神、主を恐れ、このみおしえのすべてのことばを守り行うようにするためである。」

みおしえを聞くのは、大人の男性や女性だけではなく子どもも一緒です。またそれに加えてイスラエル人ではない寄留者と呼ばれる人たちも聞く。ようは年齢や民族国籍言語の区別なくすべての人がみおしえを聞くことになる。子どもたちは大人と一緒に礼拝に加わり、みことばを聞くようにと招いてくださっている。私たちの礼拝で「ノアのじかん」を設けているのも、このみことばに従ってのことです。

２）主を恐れる

どうしてみことばを聞くの。その目的ははっきりしています。これから向かおうとしている約束の地、カナンの地で、神である主を恐れるため。「恐れる」と聞くと、神が恐くてブルブル震えるような印象がありますが、それとは違います。

こう考えたらわかりやすい。例えば国で定められている法律なんか恐くないという人がいたとします。そんな人が車を運転するとどうなるか。極端なことをいえば30km/hの制限のところを100Km/hで走ってもかまわないわけです。そうしたら当然ですが、事故が起きて人を傷つけてしまうし、自分だっていのちが危ない。それで道路交通法というものがあり、それを守ることでお互いに安全に暮らせる仕組みになっている。

聖書で言う「恐れる」はそれに通じるところがあります。たとえば、ほかの人を愛して大切にしたい。自分を愛して大切にしたい。そういう心はだれにでもあります。けれどもそれがなかなか難しくてできないと皆ずっと悩んでいます。どうしてか。人々が神を恐れないからです。神を恐れませんから、神のみことばを守る必要がないと思っている。その結果、ほかの人を傷つけどこにも解決がなくて苦しむ。もしほかの人を本当に愛し、また自分を愛したいと思うなら、神を恐れ、神のみことばに立ち返り、従いなさい。それが聖書が一貫して語っていることです。

３）彼らが生きるかぎり

とは言っても私たちは罪人ですから、何かに従うというのは好きではない。一回限りの人生を誰かに命令されながら生きるなんて愚かで、まして聖書に縛られるなどとんでもない。「自由」に生きるべきである。私はかつてそう思っていました。イスラエルの民もそうです。今日の箇所では、まだおとなしくしていますが、16節で言われてしまう。「（あなたがたは）わたしを捨てて、わたしの契約を破る。」神はお見通しなわけで、実際にそうなっていく。だから私たちが生きている間、繰り返し、口を酸っぱくしてみことばを教えていく。

３　教会

１）主が先頭に立つ

ヨシュアはこれから神がアブラハムに語ってくださった約束の地に向かおうとしています。同じように今私たちも約束の地として目指しています。それは古い契約で示されたカナンの地ではもはやあり

ません。新しい契約となられたイエスが教えてくださった神の国を目指しています。
　そこに向かおうとするとき、だれが先頭に立つのでしょう。モーセは言いました。「主ご自身があなたに先立って進まれる。主があなたとともにおられる。主はあなたを見放さず、あなたを見捨てない。」
　主はまるでスポーツ観戦するように観客席に座って「がんばれ」と声をかけて見ているのではない。私たちと一緒にプレーする。いやそんなものではない。私たちの先に立って進まれる。それはまっすぐな道ではありません。私たちの罪が神の国の前に立ちはだかっています。神の国に入るためにはこの罪が処罰されなければならない。そのために主が十字架で死んでくださり、よみがえってくださって、ここに神の国の入り口があるとはっきりと示してくださった。その十字架を見上げて救われなさい。これが私たちの守るべき神のみおえしえです。

２）集まり、聞き、学ぶ
　そのみことばを聞くために私たちは集まり、学んでいきます。新しいリーダーが決まったらそれですべてが終わった、というのではありません。大切なのは、私たちのいのちであるみことばを聞くために毎週毎週、私たちは集まり、学び続けていく。そうやって約束の地、神の国に迎えられていく。その地道な積み重ねです。
　そのみことばを語る者がいなければ聞くことができません。私たちはふさわしい牧師が与えられるように祈って備えていきたい。主が先立ってくださるのなら、必ずふさわしい方を送ってくださると信じて、主により頼みながら歩んでまいります。